

第4回（仮称）八王子市男女共同参画推進条例制定検討会 会議録（要旨）

日時 令和3年（2021年）12月13日（月） 午後6時～午後8時

形式 ウェブ会議

出席者 (順不同・敬称略)

江原 由美子	飯田 いずみ	細江 祐子
島崎 誠	清水 弘美	石川 茂子
伊藤 セツ	八木橋 宏勇	青木 耕平
北見 みゆき		

欠席者

野崎 忠行	福澤 武文
-------	-------

出席職員

市民活動推進部長 小山 等	男女共同参画課長 富澤 知恵子
---------------	-----------------

事務局

小峰 明美	佐宗 政明	神谷 義孝
村上 佳穂	瀧澤 里佳子	

公開・非公開の別 全ての議題について公開

傍聴人の人数 14人

資料

定義（案）

次第

- 1 市民活動推進部長挨拶
- 2 議事

（仮称）八王子市男女共同参画推進条例に盛り込む内容について

- 3 質疑・意見交換
- 4 その他

議事

(仮称) 八王子市男女共同参画推進条例に盛り込む内容について

事務局から、今回の検討会では前回までとは異なり、子ども・若者に焦点をあてた未来のまちづくりに向けた視点から条例について意見をいただきたい旨説明した。

【参加者からの質問・意見】

参加者・・・今回の会議では、人々の状況、価値観、社会を取巻く環境などを踏まえ、未来を担う子どもや若者を中心とした「未来に向けたまちづくり」という視点で意見を募るといふことか。八王子の抱えている課題を表に出すことで多くの人に賛同を得られるような内容になると良い。

参加者・・・事務局の説明の趣旨は理解した。しかし、これまでの会議で検討を進めてきた女性の妊娠・出産といった視点は無くしてはならないのではないか。

参加者・・・事務局からの説明は、第1回目の検討会で説明があった内容と同じではないか。今作ろうとしている条例が100年先にも通じるような男女共同参画やジェンダー平等を目指すものでありたいとの趣旨を感じた。こうした視点は元からあったもので、前回の検討会の資料もそれを踏まえて作ったものではないのか。今回の検討会で急に変わったとは思わない。また、前回の検討会では、条例の構造の「地域団体の責務」まで議論したが、以降についてはいつ議論するのか。

事務局・・・これまでも、「未来に向けたまちづくり」から考える男女共同参画推進を踏まえて条例の検討を進めてきた。市では今、新たな長期ビジョンの策定に取り組んでいる。その中で、将来に向けてどんなまちづくりをしていくかという意見もいただけたらと思う。「性別による権利侵害の禁止」からの議論は本日の時間に余裕があれば行う。できないようであれば検討する。

参加者・・・「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」という言葉を用いて条例で表現するかは別として、安心して妊娠・出産できるまちであれば若者も住んでくれる。それが実現していないから市外に出て行ってしまったり、少子化になってしまう。八王子に住み着いた学生たちが、「ここなら安心だね」と住み続けてくれるようなまちをつくるのが課題に直結すると思う。これまで議論したことも含めて、子どもや若者の将来に焦点を当てた未来のまちづくりに関わる論点を参加者の創意工夫で色々出していけば、条例案をつくる時に役に立つのではないか。

参加者・・・学生は各地から集まってくる。地元に戻りたい学生を引き留めることはできないとしても、多くの学生たちは新宿や渋谷、横浜などで就職活動をし、どうして市内に就職しよ

うとしないのだろうと思っていた。八王子に限らず、社会には色々な世代の人がいて、色々な考え方が各人の中に醸成されている。本来的に、それぞれの考え方に良い・悪いはない。ただ、ジェンダー意識による価値観や視点で物事を語る若者は相対的にあまり多くないように感じている。「男性だから」や「女性だから」とは大多数が考えていないようだ。だとすると、八王子に若者が増えることによって、自然とこうした考え方が広がっていくと想定される。年配の世代には、若者とは考え方が異なる人もいるだろうが、若者が一生懸命頑張っている姿を目にすることが意識の変容をもたらすきっかけになると思われる。大学によっては、年配の方と学生が協働する機会を設けている。最初はどうか接したら良いかわからず拒絶する年配の方もいたが、時間をかけて互いに意見を言い合って、一緒に活動する時間が増えることで徐々に分かり合っていく場面を多く見てきた。大学を卒業した後も市内に残るきっかけを少しずつ増やしていくのが一つの有効な策だと思う。しかし、学生のニーズもあるので、どのように市から企業にうまく働きかけていくのかが大きいと思う。就職後に八王子支所に赴任した卒業生たちからは、「自分が知っているまち」「4年間通ったまち」だから、「八王子が職場で良かった」という声を沢山聞くし、転勤になったら悲しそうな顔をするのがとても印象に残っている。中長期的な男女共同参画を見据えたまちづくりを考えると、八王子には多くの大学があるので、学生たちが市内に残っていくような、あるいは、戻ってきてくれるような施策を、市から企業や団体に働きかけるのが良いのではないかと思った。

参加者・・・私は、一言でいえば「子育てしやすいまち」にすることが必要だと思う。学生を市内に引き留めるのは無理だと思う。みんな夢を持って、おしゃれな会社に勤めたり、地元に戻っていく。だから、例えば産婦人科の病院や学童・保育園を充実させるなどして、出生率を高める取組が大事だと思う。八王子で生まれ育った子どもは、外に出て行ってもいずれ八王子に戻ってくることが多い。子育てしやすいまちにすることが必要である。八王子で生まれ育った子どもは八王子が好きであることが多く、市内に就職したり、生活を八王子で完結している人が沢山いる。子育てしやすいことを他の自治体よりアピールすることで、子育て世代に選ばれるまちになるのではないかと思う。

参加者・・・テレビで多摩ニュータウンの特集をやっていた。当時は「ニュータウン」だったのが今では「オールドタウン」になっていて、空き家だらけだそうだ。学生に空き家に住んでもらい、また、そこで地域の高齢者と接する機会を持ったことで、地域に定着して就職した例もあるそうだ。八王子でもこのような取組を行っているのか。

事務局・・・八王子でも、このような取組をいくつか行っている。グリーンヒル寺田では、法政大学の学生と一緒に取組を行っている。また、館ヶ丘団地でもリニューアルをする中で拓殖

大学の学生と取組を行っていて、高齢者を団地タクシーで送迎したりしている。新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の予約も学生が代行していた。

参加者・・・空き団地を八王子の活性化やまちづくりにどのように活かしていくかは、地域の将来にとって重要である。人は中心部に集まっていて、八王子の周りでも、神奈川県では横浜も人口減少に直面している。横須賀や三浦半島も人口がどんどん減っている。空き団地は活用できる。これまで家賃が高くて学生が困っていたが、空き団地をまちづくりに活かせば若者も定着するかもしれない。若者が暮らしやすいまちをつくるための一つの視点が男女共同参画である。ただ、若者は男女という性別をあまり考えていない。これはある種、ジェンダー平等や差別などについて自覚していないからである。「男性も女性も共感し合っていて、同じような環境に置かれている」と思っている若者が多い。こうした若者にどのようにアプローチするかも一つの視点としてあるのではないか。

参加者・・・八王子は学生のまちだが、市外から来た学生がみんな外に出て行ってしまふのをなんとかするために、八王子青年会議所では今年度に事業を構築した。学生に色々な視点からアンケートをとってみると、面白いことに市内在住の学生も、市外から来て京王線やモノレール沿いに住んでいる学生も、中心市街地にはほとんど訪れないことがわかった。だから、八王子の中心市街地を知らない市外から来た学生に、中心市街地をブランディングしてもらおうと事業を行った。学生は非常に色々な意見を持っている。この検討会の参加者も学生時代のことを覚えている人や学生と同じ発想力を持っている人はいないと思う。我々が学生目線の未来のまちづくりを考えるのは難しいのではないか。その一方で、拓真高校の取組を紹介したい。拓真高校は市内在住の生徒に市内での就職を促している高校で、勉強が得意ではなく進学ができない生徒にしっかり就職を斡旋している。取組を続けていくことで、「同じ学校の先輩がいる」「だから私もそこに就職する」「僕も就職する」という流れをつくり出していて、非常に面白いと思っている。私も学生時代に「少し関西に住んでみたい」と思っていて、実際に住んだことがあった。しかし、最初からいずれは地元に戻るつもりだった。そういう人が市内にも沢山いると思うので、学生を残すというよりは、今いる八王子の子どもたちを残していく取組をした方が良いと思う。また、今の若い子たちは男女共同参画ということ自体に直面してなく気にもしていない中、「市はこんなことを考えている」と学生にどのように伝えていくかが課題である。学生目線で考えていくのであれば、学生委員会と一緒に何かをするのも面白いのではないか。

参加者・・・学生に市内で活動してもらえれば、地元に戻っても、あるいは、市外に出て行ってしまっても、同じような観点で地域づくりに関心を持つ人が育つので、日本全体にそういう

人が増えると考えれば決して悪いことではない。学生も「役に立つことがしたい」とか、「自分の経験をもとに別のところで実践してみたい」という希望を持っている。学生が地域活動に参加したり、高齢者を手伝ったりする感覚を持つことがとても大事である。

参加者・・・八王子で生まれ育った児童・生徒・学生と、市外から来た学生で卒業後も八王子に残ろうとする人材は、人数ほか様々な面で異なるため同列に並べて考えてはならない。意見を一つにまとめることを求められているわけでもなく、事実として大学卒業後も八王子に残る選択をする学生が一定数いることを大事にしてほしいということ。

参加者・・・確かに大多数の学生は市外に出て行ってしまいが、データの裏付けをとって何パーセントかでも市内に定着しているようであれば、それは八王子の産業にとって大事だと思う。

参加者・・・私は八王子でずっと育ってきた。八王子の風景が大好きである。大学への進学と就職の際には都心部に出て行ってしまったが、その頃も電車で地元に戻ってきて山が見えてくるととてもほっとした。市民の心に訴える風景のポテンシャルを実感している。自然の中で子どもが五感を活用して思い切り遊んで、生きる力を身に着けることが大事だと思う。子どもたちが地域の風景を感じて、触れ合う機会を沢山つくってほしい。地元の小学校から「身近な自然の中で遊ぶ」をテーマに生徒に話してくれないかと声がかかったことがあり、その時にも「いつか自分の中で風景が支えになったり、励みになることがある」と話した。八王子の良さを理解してもらえるような取組を行っていきたい。条例の中では「インクルーシブ」という言葉が用いられていないが、今は女性か男性かという括りではなくて、年齢や障害の有無、国籍など関係なく、何も排除しないで、誰もが参加できる場が注目されてきているので、「インクルーシブ」という言葉や視点を取り入れられたら良いと思った。

参加者・・・企業では「ダイバーシティ&インクルージョン」をずっと推奨しているし、教育現場でもインクルーシブ教育として、誰も排除しないことがいわれている。その要素を取り入れたらどうかという意見にはとても賛成する。

参加者・・・私の考えでは、子育てしやすいまちにしたいのが大前提にあって、その実現に必要なことが自然の中で遊べることで、それは八王子のアピールポイントの一つでもあるから大事にした方が良いと思う。子どもミライ会議に参加した際に、子どもたちから「裏高尾を誰かに薦める人が少ないから、もっとしっかり宣伝してほしい」「自然を大事にしてほしい」という意見があった。自然の中で遊ぶことは子どもの大きな力になるのに、今の子どもにはその時間がない。だから、学校教育の中で自然の中で遊ぶ時間をつくることが必要で、自然と関わる教育に取り組むことが子育てしやすいまちをアピールする上でとても有効だと思う。また、市内に仕事があることも絶対に欠かせない。

参加者・・・学生を引き留めるために、八王子を好きになってもらえるように推進していくのはとても良いと思う。私の親戚はアルバイト先で、長野県出身で大学卒業後も地元に戻るのではなく市内で仕事を探している人と知り合ったと言っていて、市外から来た学生でも市内に残る可能性が無くはないのだと思った。また、大学生が参加できる市内の社会貢献のボランティア団体のリーダーとも話す機会があって、この人は実家がつくば市にある大学4年生で、もう授業もないので下宿先を引き払ったそうだが、ボランティア活動のために八王子に通っているそうだ。就職先は都心部であるとのことで、当然ながら、実家からボランティア活動のために八王子を訪れるということは、そのボランティア団体の活動が魅力的なのだろうが、うまくつなげることができれば市内に定着する可能性もあるのではないか。八王子はかつて学園都市を目指して大学を誘致した時代があったが、当時の商工会議所は学生目線のまちづくりに取り組んでいなかったように思う。中心市街地には映画館が一つもないし、ショッピングモールも町田や立川と比較するとその差を歴然と感じる。だから、八王子を学園都市にしようとした時に、商工会議所と一緒にもう少し推し進めるべきだったのではないか。もし、今それが両輪で回っていないのであれば、これからでも遅くないので商工会議所に働きかけて、学園都市としての完成形を模索していくのが絶対に必要だと思う。

参加者・・・学生のボランティア団体にNPOやNGOのような活動する機会を与えて、色々な形で起業に結び付けるのも可能だろう。下北沢では本屋でライブをするなど、若者が面白いことをやっている。八王子もこうした活動がまちを沢山彩っていても良いはずなのに、あまりその動きはみられない。

参加者・・・私も同じように感じている。町田の子どもたちは町田で遊んでいるのに、八王子の子どもたちにとって八王子駅は乗換えの駅であって、遊びに行くのは町田や立川だ。渋谷に行く子どももいると聞く。町田駅は駅周辺を再開発して、とても成功している。八王子駅も南口を開発していく中で、学生目線で考えてもらいたい。また、八王子市には子どもセンターはあるのか。町田には、小・中学生に限らず高校生も楽しめる公的施設がいくつかあって、子どもたちが集まっている。地域ごとに子どもたちの拠点がつくられると良い。

事務局・・・八王子には、小学生から高校生まで利用できる施設として、地域に児童館がある。午前中は、小さな子どもと母親も利用することができ、イベントなども行っている。

参加者・・・八王子の中心市街地には若者が集まらないが、都内の他の地域も同じ傾向にあるのだろうか。IT技術の進化により、これまでにあった職種が無くなって、新しい仕事を探さなければならぬ若者が増えている。だとすると、新しい仕事を造り出すまちの創造性が

あれば、若者が希望を持って働けるのではないかと思う。八王子にも研究の種はおそらく山ほどあって、色々な形で産業に結び付くものもあるはずだが、それがうまくいっていないのか。

参加者・・・あと 20 年もすれば、起業する人が増えると思う。大きな会社に就職して安定する時代は終わろうとしている。小さなベンチャー企業が会社を興すのは地方の田舎であることが多いが、八王子も都内なのに少し田舎で適した場所だと思う。子どもミライ会議でも、「八王子の廃れた商店街の空き店舗に面白い店を入れてほしい」という意見が沢山あった。会議に参加する子どもたちは 10 歳くらいだが、20 年もすると 30 歳になって、中には起業する子どももいるのではないか。私は子どもに「八王子は小さい東京都」だと教えている。八王子には、にぎやかな場所も、住宅地も、自然もあるので、これらをきちんと区分けして、遊びやすく住みやすいまちにしたら良いと思う。

参加者・・・行政が間に入れば、小さな企業が空き部屋や空き店舗を借りやすくなるだろうし、個人だって「そうであればやってみよう」という気持ちになるはずで、色々な活性化の種になると思う。男女共同参画の観点からすると、主婦たちの新たな仕事の拠点や情報交換の場にもなって、住みやすいまちにもつながっていくと思う。地域づくりが子育てや生活の問題だけではなく、個人の生きがいや仕事などにも結び付いていく。障害がある人も、子どもを持つ人も家庭にだけいるのではなくて、外に出かけて行って色々な活動ができることが、インクルージョンや男女共同参画の観点からとても重要だ。ちゃんと仕事ができればもちろん良いが、できない人もいるし、年齢的にそこまでしない人も沢山いる。そういう人もできる範囲で参加できることが大事ではないか。こうしたまちをつくる視点もあって良いのかもしれない。

参加者・・・最近、生活保護を受給する若いシングルマザーが増えたように感じている。以前は少し年配の人が生活保護を受給していた印象があるが、若い親が多くなってきた。仕事と子育てを両立しにくいのかもかもしれない。

参加者・・・子どもを育てていると仕事の時間が捻出できなくて、パート労働のように時間で働くことになりがちだ。コロナ禍で仕事を失ってしまう状況になると、生活が立ち行かず生活保護に頼らざるを得ない。日本は母子家庭の状況が先進国の中では最悪だ。シングルマザーの貧困率は 6 割近くになっていて、トルコと同程度である。トルコはイスラム教を信仰していて、女性が働けずにみんな専業主婦をやっているような国である。日本の女性はシングルマザーも含めてほとんど働いているのに貧困率が同じくらいであるのは、非正規労働に従事する女性の賃金が低いことの根拠だと経済学者はみんな言う。これは八王子の男女共同参画にとっても、まちづくりにとっても重要な課題だ。国が長い間、

非正規労働者の賃金について労働法制などを放置してきたツケだと思う。こうしたことが、人口減少にじわじわとつながっている。

参加者・・・人口を増やすことを考えると、働き口が必要なのだろうと思う。私が小さい頃は、八王子といえば繊維工業が盛んで、都内の中でも大きなまちという印象だった。それが段々と衰退して、都心に人が出て行ってしまっているのではないか。市内に働ける場所や働きやすい企業が近くにある状況をつくり出せると良いと思う。そうすれば女性も働きやすいし、男性も家庭と仕事を両立しやすいのではないか。八王子は大学も多いので、連携して何か新しい産業をつくるのも良い。産業交流センターもできることだし、そこを活用して女性起業家を集めて取組をするなどしたら良いと思う。施策決定を行う場に女性の参画が多い方が、地元の人視点での施策決定がスムーズにいくのではないか。

参加者・・・横浜では、女性起業家を育成するための講座を沢山やっている。実際に会社を興さなくても、起業に関する知識を求めている人たちが存在している。それは男女共同参画の計画の中に1つ記すことができる気がする。ワーク・ライフ・バランスを実現する上で、産業育成や女性起業家、それを支援する組織、あるいは、どのような都市をつくるか検討する中に女性視点を入れていく。八王子から都心まで働きに行くとなると、1日2時間程度通勤に費やすことになる。それは、家事が2時間できない、睡眠時間が2時間減る、子どもとの時間が2時間減るということにもなる。だから、どのような都市をつくるかを検討する中に女性の意見も含めて、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けてしっかりやってほしい。

参加者・・・八王子は大学が多いことを生かした方が良い。IT技術を生かした地域おこし事業は、アイデア次第で色々できる。それから、材料工学と共同して、これまでに無かった商品をつくることもやろうと思えばできるだろう。最近では、大学が学内の教授に資金や場所を提供して起業させていて、このような中に産業に結び付くものもあると思う。「企業と大学の共創と付加価値」という言葉が聞かれるようになって、横浜国立大学では、神奈川県の大企業と大学を男女共同参画の視点から結び付けて、学生向けのイベントをしたり、ダイバーシティについてのキャリア教育を企業から講師を招いて行うなどしていた。こうした活動が実って、横浜では4大学が大学間と企業と連携して事業を始めるところのようだ。仕事をつくり出すことに女性の視点を入れていくのはとても大事だと思う。最近では、フェムテックにより新しい商品をつくることにも大きな可能性が見いだされていて、これはインクルージョンにも結び付いていると思う。

参加者・・・これまで色々な議論があったが、条例との関係で言えば、これらを目的や定義、基本理念などのどこかに反映させるのか。八王子は他自治体と比べて条例をつくるのが遅い。

だとすると、議論の中で出た八王子らしさを盛り込むなど、新しいものをつくる必要があるのではないか。これまで「男女共同参画」と言ってきたところに、「ジェンダー平等」という言葉が出てきたのは良かったと思ったのだが、それをどのように用いていくのか取れんしないと時間ももったいない。事務局ではどのように考えているのか。

事務局・・・これまでと今回の議論の内容を踏まえ、条例においてどのように表現したり活かしていくのかは事務局で検討した上でお示ししたいと思う。

参加者・・・議論の内容をある程度反映させた条例の試案を示した上での検討が必要ではないかと思う。課題をコンパクトにまとめた会議にしないと、いつまでも条例が完成しないということになりかねないと心配している。

参加者・・・今回の検討会では、第3回の続きではなく、まちづくりの視点で議論したが、私は男女共同参画の視点を持って発言したつもりだ。次回は事務局で作成した試案を見せてもらいたい。

参加者・・・事務局には次回の検討会で試案をお示しいただくということによろしいか。

参加者・・・「男女共同参画」は「gender equality」の邦訳であるから、「ジェンダー平等」と表現すれば多様な性を自認する誰でも平等になる意味なので良いと感じた。とは言え、男女共同参画は社会が男女平等になるための1つの手段であるので、条例の名称について言及するならば「男女平等条例」が良い。しかし、国立市の条例を見てみると「女性と男性及び多様な性の平等を推進する条例」という名称になっている。国立市は、大学で性自認の問題で自殺した人がいて、その市ならではの名前をつけたのではないか。だとすると、八王子にとって産業が重要なのであれば、この視点から条例の名称を考えても良いと思う。他の自治体に倣って「男女共同参画推進条例」にするのではなく、「ジェンダー平等」も候補の1つであるし、国立市のように「女性と男性及び多様な性の」としても良いのではないか。

参加者・・・最近ではLGBTQが広く認知されてきているので、男性か女性だけでなくジェンダーを捉えられたら良いと思う。もう10年以上前のことになるが、大学生が「LGBTQの話をしてほしい」と小学校にやってきたことがあり、私は当時それを受け入れられなかったことを悔やんでいる。条例にこうした言葉が含まれているだけで、市民に示すことができるのではないかと思う。

参加者・・・条例をつくるのが遅いなら遅いなりに、八王子らしい言葉や視点を取り入れてつくられたら良いと思う。今回の議論はとても有意義だった。子どもの遊び場を見ていると、遊び場が母親の居場所にもなっていて、子育てをしている母親の負担が大きいことを感じる。中には、姑から「子どもを連れて外に行ってきたさい」と言われたり、コロナ禍でパー

トナーが在宅ワークになって家に居場所がない人も沢山いる。母親が幸せそうだったらまちが明るくなることを実感していて、条例がどんな形になるにせよ、子育てをしている母親が幸せであるかという視点が欠かせないと思う。私は子どもが3人いて、八王子で10年くらい子育てをしているが、1人目の時と今とでは市の支援も大分厚くなってきていると感じる。市内の他所管とも連携をとりながら条例の検討を進めていけたらと思う。

その他

事務局より、次回の検討会は令和4年（2022年）2月16日（木）午後6時～午後8時に、ウェブ会議形式にて開催する旨伝えた。